

キハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國、地方公共團體又ハ政府ノ指定スル者ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

勞働者災害扶助責任保險法施行令中改正の件公布

勞働者災害扶助責任保險法施行令中改正の件については昭和十六年十一月五日付官報を以て左の如く公布を見た。

勞働者災害扶助責任保險法施行令

中改正ノ件 (昭和十六年十一月四日 勅令第九百五十三號)

勞働者災害扶助責任保險法施行令中左ノ通改正ス第十七條但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ療養費ニ對スル保險金ノ支拂ニ關スル事項ハ工事ノ主タル事務所ノ所在地(扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)之ヲ掌ル第三條第三項第四項若ハ第四條第一項ノ承認者ハ指示又ハ第十二條若ハ前二條ノ規定ニ依リ認定ニ付亦同ジ

附則

本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和六年八月二十日勅令第二百七十七號勞働者災害扶助責任保險法施行令抄録

第十七條 勞働者災害扶助責任保險ハ保險院長官ニ於テ之ヲ掌ル但シ第三條第三項第四項又ハ第四條第一項ノ承認又ハ指示ハ工事ノ主タル事務所ノ所在地(扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)之ヲ爲ス

學校卒業者使用制限令中改正の件公布

昭和十三年八月二十四日公布の學校卒業者使用制限令中一部改正に關する勅令は昭和十六年十一月二十二日付官報を以て左の如く公布を見た。

學校卒業者使用制限令中改正ノ件

(昭和十六年十二月二十一日 勅令第九百九十六號)

學校卒業者使用制限令中左ノ通改正ス
第二條ノ二 厚生大臣卒業者ノ使用制限上特ニ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ認可シタル員數ヲ減少シ又ハ同條ノ認可ヲ取消スコトヲ得
第三條中「前條」ヲ「第二條」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十三年八月二十日勅令第五百九十九號學校卒業者使用制限令抄録

第二條 卒業者ヲ雇傭契約ニ基キ使用セントスル者

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ學校ノ程度及學科別ニ各年ノ卒業者ノ使用員數ニ付厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ
第三條 厚生大臣前條ノ認可ノ申請ニ付不正又ハ虚偽ノ事實アリト認ムルトキハ認可シタル員數ヲ減少シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得

大學學部等の在學又は修業年限の臨時短縮に關する勅令竝に之に伴ふ諸關係法令の公布

臨戰態勢下大學その他高等諸學校の學生生徒をしてその卒業期を繰り上げしめ速かに國家の要務に應ぜしむることを目的とし、大學學部等の在學年限又は修業年限の臨時短縮に關する勅令は昭和十六年十月十六日付官報號外を以て公布せられたが、之に附帶する陸軍及び文部省令竝に兵役關係に關する諸法令を再録すれば以下の如くで、大學その他の高等諸學校の卒業期は今昭和十六年度に於ては三月、明昭和十七年度に於ては六月、又中等諸學校に於ては昭和十六、七兩年度に於て各三月短縮せらるることとなつた。

大學學部等ノ在學年限又ハ修業年限ノ臨時短縮ニ關スル勅令

(昭和十六年十月十六日 勅令第九百二十四號)

第一條 大學令第十條、第十一條、第十三條第一項若ハ第十六條、高等學校令第七條第一項、專門學校令第六條若ハ第八條第二項又ハ實業學校令第二條ノ第二項ノ規定ニ依リ大學學部ノ在學年限又ハ大學學部、高等學校高等科、專門學校若ハ實業專門學校

ノ修業年限ハ當分ノ内夫々六月以内之ヲ短縮スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ大學豫科ノ修業年限ヲ短縮シタル場合ニ於テハ大學令第十三條第二項及第三項中修業年限三年又ハ修業年限二年トアルハ夫々前項ノ規定ニ依リ短縮シタル修業年限ヲ謂フモノトス

前二項中大學令、高等學校令、專門學校令又ハ實業學校令トアルハ夫々朝鮮教育令及臺灣教育令ニ於テ依ル場合ヲ含ムモノトス

第三條 前條第一項ノ規定ニ依ル在學年限又ハ修業年限ノ短縮ハ内地ニ在リテハ文部大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督之ヲ行フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

大正七年^{十二月六日}勅令第三百八十八號大學令抄錄

第十條 學部ニ三年以上在學シ一定ノ試験ヲ受ケ之ニ合格シタル者ハ學士ト稱スルコトヲ得

前項ノ在學年限ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上トス

第十一條 研究科ニ入ルコトヲ得ル者ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以上其ノ他ノ者ニ在リテハ三年以上

以上當該學部ニ在學シ其ノ他相當ノ學力ヲ具備タル者ニシテ當該學部ニ於テ適當ト認メタルモノトス

第十三條 大學豫科ノ修業年限ハ三年又ハ二年トス
修業年限三年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラ

レタル者トス

修業年限二年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

第十六條 大學及大學豫科ノ學則ハ法令ノ範圍内ニ於テ當該大學ノ之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
大正七年^{十二月六日}勅令第三百八十九號高等學校令抄錄

抄錄

第七條第一項

高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス
明治三十六年^{三月二十日}勅令第六十一號專門學校令抄錄

抄錄

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第八條第二項

公立又ハ私立ノ專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度並豫科、研究科及別科ニ關スル規程ハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム
明治三十二年^{二月七日}勅令第二十九號實業學校令抄錄

第二條ノ二第二項

實業專門學校ニ關シテハ專門學校令ノ定ムル所ニ依ル

大學學部等ノ在學年限又ハ修業年限ノ昭和十六年度臨時短縮ニ關スル件
(昭和十六年^{十月十六日}文部省令第七十九號)

第一條 昭和十六年勅令第九百二十四號第一條第一項

及專門學校令第八條第一項ノ規定ニ依リ大學學部ノ在學年限並ニ專門學校及實業專門學校ノ修業年限ハ昭和十六年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々三月之ヲ短縮ス

第二條 左ニ掲グル學校又ハ教員養成所ノ修業年限ハ

昭和十六年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付三月之ヲ短縮ス

一 高等師範學校及女子高等師範學校(教育科及研究科ヲ除ク)

二 專門學校ニ於ケル修業年限三年以上ノ研究科及別科

三 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年以上ノ實業學校、國民學校高等科一年修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年以上ノ實業學校及國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノ實業學校(夜間授業ヲ爲スモノヲ除ク)

四 實業學校ニ於ケル修業年限三年ノ高等科

五 專門學校令第五條ノ資格ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノ學校又ハ前二號ノ實業學校ニ準ズベキ學校ニシテ私立學校令ニ依リ設立セラレタルモノ

六 實業學校教員養成所

第三條 本令ニ依リ短縮セラレタル修業年限ハ師範學校中學校高等女學校教員檢定規程第七條第二號、私立醫學專門學校指定規則第二條第二號及昭和二年文部省令第二十四號第二條ノ適用ニ付テハ短縮セラレザルモノト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

昭和二年十一月十七日 文部省令第二十四號ハ 計理士法第三條ニ依ル學校認定ニ關スル件ナリ

大學學部等ノ在學年限又ハ修業年限ノ昭和十七年度臨時短縮ニ關スル件

〔昭和十六年十一月一日 文部省令第八十一號〕

第一條 昭和十六年勅令第九百二十四號第一條第一項及專門學校令第八條第一項ノ規定ニ依リ大學學部ノ在學年限並ニ大學豫科、高等學校高等科、專門學校及實業專門學校ノ修業年限ハ昭和十七年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付夫々六月之ヲ短縮ス

- 第二條 左ニ掲グル學校又ハ教員養成所ノ修業年限ハ昭和十七年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付六月之ヲ短縮ス
一 高等師範學校及女子高等師範學校(教育科及研究科ヲ除ク)
二 專門學校ニ於ケル修業年限三年以上ノ研究科及別科
三 臨時教員養成所
四 實業學校教員養成所

- 五 實業學校ニ於ケル修業年限三年ノ高等科
六 專門學校令第五條ノ資格ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上ノ學校又ハ前號ノ實業學校ニ準ズベキ學校ニシテ私立學校令ニ依リ設立セラレタルモノ
第三條 左ニ掲グル學校ノ修業年限ハ昭和十七年度ニ於テハ其ノ年度ニ卒業スベキ者ニ付三月之ヲ短縮ス

- 一 國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル

修業年限五年以上ノ實業學校、國民學校高等科一年修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限四年以上ノ實業學校及國民學校高等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年以上(夜間授業ヲ爲スモノハ修業年限四年以上)ノ實業學校

二 前號ノ實業學校ニ準ズベキ學校ニシテ私立學校令ニ依リ設立セラレタルモノ

第四條 本令ニ依リ短縮セラレタル修業年限ハ師範學校中學校高等女學校教員檢定規程第七條第二號、私立醫學專門學校指定規則第二條第二號、大正七年度省令第三號第一條第四號及昭和二年文部省令第二十四號第二條ノ適用ニ付テハ短縮セラレザルモノト看做ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

昭和十六年十月十六日勅令第九百二十四號ハ大學學部等ノ在學年限又ハ修業年限ノ臨時短縮ニ關スル件、大正七年二月二十日 文部省令第三號ハ高等試驗令第七條及第八條ニ關スル件及昭和二年十一月十七日同第二十四號ハ計理士法第三條ニ依ル學校認定ニ關スル件ナリ

昭和十四年法律第一號兵役法中改正法律中改正ノ件

〔昭和十六年十月十六日 勅令第九百二十三號〕

昭和十四年法律第一號中左ノ通改正ス

附則第四項ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

昭和二年四月一日法律第四十七號兵役法抄錄

第四十一條 徵兵檢査ヲ受クベキ者ニシテ勅令ノ定ムル學校ニ在學スル者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年齡二十六迄ヲ限トシ其ノ徵集ヲ延期ス前項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ニ對シテハ在學ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵檢査ヲ行フ但シ一ノ學校卒業ノ日ヨリ六月以内ニ他ノ學校ニ入學スル者ニ付テハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス

第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル期間滿了ノ年ニ至ルモ在學ノ事由尙止マザル者ニ對シテハ其ノ年徵兵檢査ヲ行フ

戰時又ハ事變ニ際シ特ニ必要アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ徵集ヲ延期セザルコトヲ得

昭和十四年三月九日法律第一號兵役法抄錄中改正抄錄

附則第四項

昭和十四年十二月一日ニ於テ現ニ中學校又ハ從前ノ第四十一條ノ規定ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校ニ在學スル者ニ對スル徵集ノ延期ハ其ノ者ガ現ニ在學スル學校ニ引續キ在學スル間ハ第四十一條ノ改正規定ニ拘ラズ仍從前ノ例ニ依ル

在學徵集延期期間ノ短縮ニ關スル件

〔昭和十六年十月十六日 陸軍・文部省令第二號〕

第一條 兵役法施行令第百一條第二項ノ規定ニ依リ兵役法施行令第百條第一號ニ掲グル學校ニ在學スル者ニ付兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期シ得ベキ期間ハ兵役法施行令第百一條第一項ノ規定ニ拘ラズ當分ノ内左ノ區分ニ依ル

月一日迄ノ間ニ出生シタル者ニ在リテハ年齢二十三年迄、四月二日ヨリ一月一日迄ノ間ニ出生シタル者ニ在リテハ年齢二十四年迄トス

昭和十六年陸軍省令第三號ハ之ヲ廢止ス

在學徵集延期期間ノ臨時特例ニ關

スル件 (昭和十六年十月十六日 陸軍省令第四十三號)

在學徵集延期期間ノ臨時特例左ノ通定ム

第一條 當分ノ内兵役法施行令第百條第二號又ハ第三號ニ掲グル學校ニ在學スル者ニ付兵役法第四十一條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期シ得ベキ期間ハ兵役法施行規則第三百十四條ノ規定ニ拘ラズ左ノ區分ニ依ル

- 一 兵役法施行令第百條第二號ニ掲グル學校ニシテ中學校令、師範教育令、實業學校令、高等學校令、專門學校令又ハ大學令ニ依ルモノト爲シタル學校ニ於ケル修業年限ト徵集ヲ延期シ得ベキ期間トノ關係ニ付テハ昭和十六年陸軍省令第二號第一條第一項ニ規定スルモノニ同ジ
- 二 前號ニ掲グル學校以外ノ學校ニ於ケル徵集ヲ延期シ得ベキ期間ハ別ニ之ヲ示ス

第二條 昭和十六年陸軍省令第二號第一條第二項及第三項並ニ第二條ノ規定ハ前條ノ學校ニ在學スル者ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年陸軍省令第二號附則第二項ノ規定ハ本令施行前ニ於ケル轉校ニ之ヲ準用ス

在學徵集延期期間ノ臨時特例中改

正ノ件 (昭和十六年十月三十一日 陸軍省令第四十七號)

在學徵集延期期間ノ臨時特例中左ノ通改正ス

第一條第一號中「昭和十六年陸軍省令第二號第一條第一項」ノ下ニ「又ハ昭和十六年陸軍省令第三號」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

在學徵集延期期間ノ臨時特例中改

正ノ件 (昭和十六年十一月二十日 陸軍省令第五十六號)

在學徵集延期期間ノ臨時特例中左ノ通改正ス

第一條第一號中「昭和十六年陸軍省令第三號」ヲ「昭和十六年陸軍省令第四號附則第二項」ニ改ム
附則第二項中「本令施行前」ヲ「昭和十七年四月三十日以前」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

農地開發事業補助規則の公布

農地開發事業補助規則は昭和十六年十月二十八日附官報を以て省令として公布せられたが之を掲ぐれば次の如くである。

農地開發事業補助規則

(昭和十六年十月二十八日 農林省令第八十九號)

第一條 農林大臣ハ農地開發營團ニ對シ農地開發事業ノ施行並ニ之ニ伴フ移住施設ニ要スル費用ニ付毎年

度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ノ額ハ左ノ標準ニ依ル

- 一 農地開發事業ニ在リテハ其ノ事業ニ要スル費用ノ十分ノ六以内
- 二 移住施設ニ在リテハ移住家屋一戸ニ付三百圓以内、共同施設ニ在リテハ其ノ施設ニ要スル費用ノ十分ノ三以内

第三條 農地開發營團補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ事業計畫書及支出豫算書ヲ添附シ之ヲ農林大臣ニ提出スベシ

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ

第四條 農地開發營團前條ノ事業計畫書又ハ支出豫算書ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ具シ農林大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五條 農地開發營團ハ毎年度補助金請求書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第六條 農地開發營團ハ補助金ノ交付ヲ受ケテ施設シタル移住施設ハ農地開發事業令第十三條及第十四條本文(第十五條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ農地ヲ讓受ケタル者ニ之ヲ讓渡スベシ

但シ其ノ管理又ハ處分ノ方法ニ付別ニ農林大臣ノ認可ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 農地開發營團前條ノ規定ニ依リ移住施設ヲ讓渡シタルトキハ遲滞ナク之ヲ農林大臣ニ報告スベシ

第八條 農地開發營團ハ毎年七月十五日迄ニ事業成績書及支出精算書ヲ農林大臣ニ提出スベシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ農地開發營團ニ對シ補助金ノ交付ヲ停止若ハ廢